

は木の實を第一とす、梅花これにつぐといへり、

〔女重寶記〕女けしやうの巻

一髪のゆいやうの事略○中 びんのはへさがりは切そろへたるは古風なり、生なましたて、びん付にてかきあげたるよし略○下

〔老人養草〕四形體保養之説

髪を梳るに、水を付てけづるべからず、おほくは虱を生ず、本邦近來男女のかみに油をつけて梳り、蠟油髪付をいを用ひて束ぬるによりて、頭に虱を生ずる事なし、老人によりて、夫はたゞ世間榮耀風流の伊達男のすることなど、いひて、水にて梳りて虱を生る類ま、おほし、よく可心得事なり、

〔塵塚談〕上髪附油頭髪へ附る多少の事、我等小川二十歳頃は、若男は堅き油を多くつけて結たり、其後は水髪といふて、油を少し附てゆひ、近歳は多くもなく、少しにもあらず附たり、この頃は

卑賤の者には、油を少しも附ず、誠の水髪に成しも多し、

〔歴世女裝考〕四貞享年中女の頭に飾物十六品

貞享五年京板口盛衰記三卷今の女むかしなかつた事どもを仕出して、身をたしなむ物の道具數々なり、首筋より上ばかりに入用の物十六品あり、まづ髪の油鬢付もいき按に、髪の油と、びんこる髪の油といふは、みな水油のみなりしゆゑ、びん付を別とす、

〔嬉遊笑覽〕一容儀婦人首飾、昔は首飾なし、略○中 賢女心化粧に、姑六十年以前の事を延享よりに當る、

定規にして、むかしも今も同じやうに思はれ、嫁の髪みるに、略○中 凡そ首筋より上ばかりに入る物廿一二品もあり、かりそめに出るにも身拵に隙なき事思はれける、先髪の油、びん付ぎ

ん出し、略○下